



広報

平成31年4月1日発行

たちばな

第33号

(財) 日本医療機能評価機構認定病院

橋 病院

整形外科専門病院

TACHIBANA HOSPITAL

http://www.tachibana-hospital.jp

薬剤科便り

こんにちは。薬剤科より、お薬の案内をしたいと思います。今回は骨粗鬆症の治療薬について説明します。

骨粗鬆症の薬は内服薬と注射薬があります。

内服薬 は ①不足しているカルシウムを補給するカルシウム剤
②カルシウムの吸収を促進するビタミンD剤
③骨が溶けるのを防ぐビスホスホネート製剤やエストロゲン製剤
④骨の溶けるのを防ぎ骨を作ることを助けるビタミンK製剤 があります。

注射薬 は ①骨が溶けるのを防ぐビスホスネート製剤や抗ランクル製剤
②骨を作ることを促す副甲状腺ホルモン製剤 があります。

骨は毎日破骨細胞と呼ばれるものにより壊され骨芽細胞と呼ばれるものにより新しく作られています。ビスホスネート製剤は破骨細胞に作用して過剰な骨吸収(骨を溶かす)を抑えることで骨密度を増やす薬です。内服薬ではボナロン錠、フォサマック錠、注射薬ではボンビバ注などがあります。内服薬は服用時の注意事項として、空腹時に服用する事、服用後30分間以上は水以外は食べたり、飲んだりできないこと、服用後30分間は横にならないことが挙げられます。ビスホスネート製剤は食べ物が胃の中にあると吸収されなくなり、また、食道に刺激を与えるのでしっかりと、腸に届くまで、横になれないのです。毎日服用するタイプから毎週1回、毎月1回の服用のものなどあります。ジェネリック薬剤もあります。注射薬のボンビバ注は毎月1回、プラリア注は6ヶ月毎に1回使用します。患者さんの状態や他に使用しているお薬をチェックし、注射薬が使用できるか確認します。

骨を作ることを促す薬は、今は、飲み薬はなく、注射薬になります。毎日、皮下注射を自分でします。自己注射というと皆さん尻込みする方もいますが、針はとても小さく、使い方も簡単なのでだんだんと慣れてきます。やはり患者さんの状態や他に使用しているお薬をチェックし、注射薬が使用できるか確認が必要です。

骨粗鬆症になっていない方は、予防が大切です。予防には食べ物や運動が重要です。



カルシウムが含まれる食品は 牛乳・乳製品、小魚、干しエビ、小松菜、チンゲン菜、大豆製品等

ビタミンDが含まれる食品は サケ、ウナギ、サンマ、メカジキ、シイタケ、キクラゲ、卵等



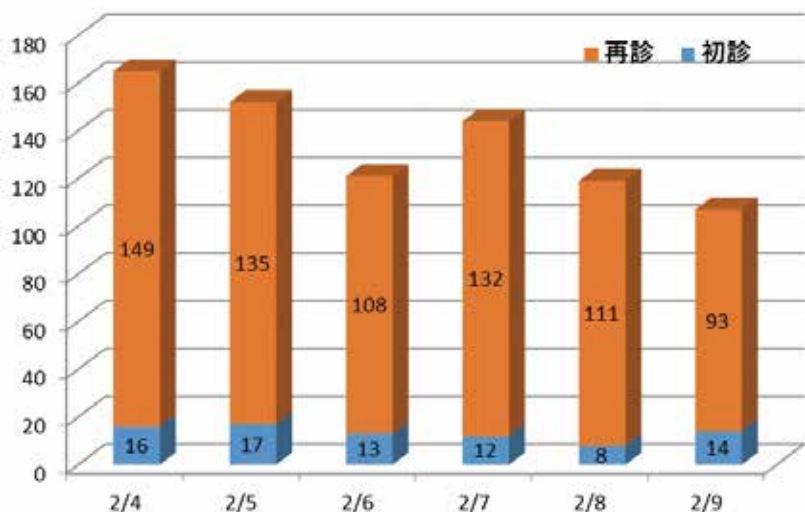
ビタミンKが含まれる食品は 納豆、ほうれん草、小松菜、ニラ、ブロッコリー、キャベツ等

運動は激しい運動は必要ありません。日常生活のなかで良く歩く、階段を使うなどちょっとした工夫で運動量を増やしてみましょう。



待ち時間調査を行いました

当院では待ち時間調査を年2回行っています。



受付から診察開始までの時間 (新患・再診)

	H28年8月		H31年2月
新患	65分	→30分短縮	35分
再診	46分	→17分短縮	29分

平成31年2月4日～9日までの外来1日平均来院患者様数は平均134名、新患13名、再診121名でした。来院患者様全員の待ち時間を電子カルテ上で計算し統計しています。

当院では、平成29年3月より電子カルテを導入し、平成31年3月で2年経過します。当初は電子カルテの操作がうまくいかず患者様を待たせるなどご迷惑をお掛けすることが多々ありましたが、導入後2年経過した現在では上記のグラフのように待ち時間短縮が出来るようになりました。

今後も待ち時間短縮のためスタッフ一同努力していきたいと思っています。

来院の際、ご不明な点等ありましたら、スタッフまで気軽に声掛けして下さい。



足指トレーニングで転倒を予防しよう!!

転倒による怪我や骨折は、高齢者が寝たきりや要介護状態になる大きな要因の一つであり、転倒を予防することは、健康寿命を延ばすことにつながります。足指はあまり目立たない体の部位ですが、バランスや歩行動作に大きく影響を及ぼしており、転倒を防ぐうえでとても重要な働きをします。

方法

- ① 椅子に座って、タオルの上に左右どちらかの足を置きます。
- ② 足の指と足裏全体を使って、タオルを手前にたぐり寄せます。
- ③ ある程度タオルをたぐり寄せたら、タオルを元に戻して左右の足を交代します。左右それぞれ3回ずつ2～3セット行います。セット間に1分ほど休憩を取ると良いでしょう。



ポイント

- ・膝の角度は90度程度で、座る位置が高めの椅子を使うと良いでしょう。
- ・トレーニング中は呼吸を止めないようにしましょう。
- ・慣れてきたらタオルの端にペットボトルを置くなどして負荷を増やしてみましょう。

難しいときは

※タオルギャザーが難しい方はビー玉や太いボールペンなどを足の指でつかむ練習から始めてみましょう。

患者さまの声



甲斐 夕子様

先日はご多忙中広報たちばなを送って戴いて有難うございました。私は当年86才の女性です。初診の折は当院の院長先生の大変良い評判をお聞きして診察を受け、今日に至っている次第です。早速に左の手術をして戴きまして院長先生を始め諸先生方や看護師さんリハビリ師の皆様方のお優しい対応に感謝している次第です。来る31年2月には術後3年目になります。お陰様にて経過は良好です。リハビリをしばらく続けて見ましたが私の身体の体質なのか4カ所も大手術を受けてる身体なのでそのせいか、リハビリをしても返って後が痛むので只今は休ませて頂いて自宅にて適当にリハをやっていきます。又当地区のこけない体操というのがありそこへも行っております。当院へは時々痛む箇所へ注射をして頂き、通院をしております。又院長先生のご立派な生花を拝見させて戴くのが何よりの楽しみでもあり心を癒す事が出来、私も昔少しばかり学んでいましたので大変に興味が出てきます。

神之園 正弘様

平成28年12月18日、右の股関節が痛くなった(姉と甥夫婦が柏木先生にお世話になっていた)柏木先生の診察の結果、股関節の内側に水が溜まっており、痛み止めの薬を30日分もらって帰った。しかし痛みは取れなかった。29年1月10日に柏木先生より水を抜いてもらったが痛みは取れなかったため、小林市の整形外科病院に平成29年1月31日より2月28日までの29日間入院して治療とリハビリを行った。しかしどうしても痛みが取れず平成29年4月27日より5月31日までの35日間入院して柏木先生により手術(人工股関節)をしてもらった。その結果1年間は痛みもなく元気になったが、平成30年5月頃より今度は歩く時に左の股関節に少し痛みを感じるようになった。検診日に診察をお願いしようかと考えています。(右足を無意識にかばっての痛みかと考えています。)

中園 一子様

私は28年9月に右足10月末に左足を手術致しました。8年間も痛みをこらえて農業と和牛生産を頑張ってきたが、主人が入退院のくり返しの生活となり私の足は痛みもひどくなり、農業もやめて主人の看病に専念いたしました。私の足はひどくなるばかり。何回も転んで腰まで痛めて大変でした。28年5月に主人が亡くなり、初盆の前に長男が東京から帰って来て明日一番に橘病院に診察に行こうと行ってつれて行きました。9月に入院が決まり9月と10月に手術でした。左足は長い装具を付けての治療で大変でしたが、結果が良くて毎週病室に診察に柏木先生が見えた時、良く頑張りましたねと言葉をかけて下さった時のうれしかった事。今でも忘れません。早二年も経って今は全然痛みもなく生活して居ます。良くなったねとみんなに。いわれます。柏木先生そしてスタッフの皆様のお陰です。ほんとうに。いありがとうございます。おそくなりましたがお礼申し上げます。

肥川 順子様

昨年8月の暑い時期に右膝の人工関節手術を受けた者です。先月4日は6ヶ月の検診でレントゲン照射、結果は順調でした。当院に40日間入院させてもらい、先生方をはじめ看護師さん、リハビリのスタッフの方達の手厚い介護のもと、又食事減塩食で私には毎日が楽しい日々でした。家では思うように行きません。玄関や勝手口を介護の方で手すりとか付けてもらって助かっています。天気の良い日は近くの農道で杖をついて40分くらい歩いています。途中2回くらい休憩して雨の日は、家の中でリハビリをしたりテレビ・ラジオを聞いたり、近場の温泉へ行ったり買い物をしたり、主婦は仕事が多くてすぐ昼になってしまいます。時にはガーデニングもして心を和ませています。掃除機は使えないので息子にしてもらって草取りの時は小さい椅子に腰かけて作業しており、まず転倒しないように心がけております。乱筆乱文にて失礼いたします。

匿名様

膝人工関節の手術をしてはや一年が過ぎた。人工関節と言うことで手術をするまで、随分悩んだと言うより恐さの方が先立った。勇気のいる手術であった。まずは先生の腕を信じることにした。手術は思っていたより早く終わり術後の痛みも殆どなかった。すぐのリハビリも思った程にきつくもなく、あつと言う間の退院であった。又、普通の生活に戻れる嬉しさが心が弾んだ。まず、目標は一つ。犬との散歩をすることであったが、すぐには実行は出来なかった。もしも犬に引っぱられて転んだらと思うと矢張り恐かった。半年程して犬と散歩してみたらスムーズに歩ける自分に自信がもてた。まだ手術した方の足は真っ直ぐ伸びないので、歩くのには跛の状態だがつい最近我ながら本当にビックリしたことがあった。なんとゆっくりだか走ることが出来たのだ。予想外の出来事に改めて足の手術をした実感で胸があつくなった。柏木先生の神の手心に心より深く感謝申し上げます。

松崎 恵美子様

私は、三十数年前に自骨で手術をし、今回は二度目というハンディがあります。当時はリハビリの大切さを学んでなく、その付けもあり運動はしていたものの筋力の低下と共に痛みが酷く限界でした。今回手術をして頂き、又徹底したリハビリを学びました。退院後は遠方のため自主トレに努めていますが、どうしても骨盤のバランスが悪く、つい左右に身体を振って歩くので、癖をつけては「まずい」と思い、専門店で室内靴用と装具を作りました。結果、歩行しやすくなった事、身体を左右に振るのが最小限になるなど改善がみられ嬉しいです。しかし、膝や太股の外側に関連痛があり、初めて整体にかかってみたところ、筋が伸びたのかととても歩きやすくなりました。可能な限り自分の足で歩く事を目標に、人工関節と身体が馴染むまでは「二～三年、リハビリ一生」の気持ちで、特に歩幅を意識し、筋力強化に努め徐々に歩きやすくなっています。柏木先生をはじめ皆様にありがとうございますと感謝の気持ちでいっぱいです。

有井 カズ子様

平成14年に両方の膝を手術しました。私は70才の時から膝が痛くて整骨院などを転々としながら治療をしたけれどなかなか思うように行かず、最後は橘病院の柏木先生にすがり人工関節手術をすすめられ手術をしてもらいました。一週間位は痛かったけどリハビリや痛み止めの薬で楽になりました。足も変形していて正座も出来ず立つのもやっとでしたけど皆様のおかげで歩くのも痛みがなくなり、春には私が一番楽しみにしている山菜採りにも行ける様に成りました。後は1ヶ月検診、3ヶ月検診とレントゲンを撮ってもらい先生のニコニコ顔に逢う事が楽しみになって来ました。先生一人でも膝の痛い人を診てやって皆喜んで帰れる様にして下さい。先生も身体だけは大事にして下さい。

小川 初枝様

左の股関節の手術を受け4～5年経ちました。長年の痛みから解放され、院長先生、スタッフの皆様にはとても感謝しています。お陰様で杖は術後半年だけ使っただけで済みました。退院して3ヶ月目にリハビリにとプールで水中訓練を始めました。5年経った現在ではカナヅチだった私も4泳法を適当に楽しんでいます。少し無理をしたり、運動不足になると時々健足側に痛みや動きが悪くなったりしますが数日でおさまります。「手術した後が大切。毎日がリハビリですよ」との病院スタッフの方の言葉を胸に日常の運動を心がけています。その節はありがとうございます。

森岡 瞳様

私が橘病院を知ったのは母が膝の手術を受け入院したからでした。会う度に回復している母の姿や病院スタッフの皆さんを見て、手術するならここで決心しました。母娘は本当に似るもので、私も長年膝の痛みで苦しんでいました。早速、柏木先生の診察を受け、術日の予約をとり、左膝の手術を受けました。順調に回復し、1年検診の時に、右膝の手術をする様手続きし、半年後に手術を受けました。それから2年経った今、日常生活や農作業にも足の痛みは全然ありません。孫達と遊んだり、孫のスポーツ観戦や旅行に行く事ができ幸せに暮らしております。これもみな、柏木先生をはじめ橘病院のスタッフの皆様のおかげだと思い感謝しております。本当にありがとうございました。



永住勝朗様

～人工関節の手術を受け歩ける幸せ～

股関節手術後1年8ヶ月になります。今思えば整形外科、整骨院での治療を受けていたが痛みが取れずある日整骨院で治療中に先生から股関節からの痛みではないかと言われ、橘病院に良い先生がいらっしゃる聞いて、さっそく来院し柏木先生の診察を受けたところ変形性股関節症と診断が出ました。頭が真っ白になったことを記憶しています。

その当時地区の区長をしており、仕事の都合でなかなか手術に踏み切れずにいたところ、1年半が過ぎた頃にもう限界と言われ、柏木先生の「頑張りましょう」の言葉で覚悟ができ手術に踏み切ることができました。術後は理学療法士の先生、看護師の皆さんのおかげで順調に回復し6週間で退院することができました。今では痛みもなく近くの運動公園で週に4日程度体力づくりに足腰に負担の少ない芝生のコースでウォーキングを行っております。コースの中に240段の階段があり手すりは使わず上り、約1時間程度の運動を行っております。また、東京に孫がおりますが、手術前は駅のホームの移動が大変でしたが、今はスムーズに移動ができ、孫も抱けるようになりました。また公園等で孫と楽しく遊ぶことができるようになり感謝の気持ちでいっぱいです。

あの痛みから開放され知人に会うと以前は歩く姿を見ると人ごとながら大変だなと思っていたが、今ははつらつとして明るくなったと言ってくれます。

歩けることの素晴らしさを改めて感じた次第です。

柏木院長先生をはじめ、病院スタッフの皆様には深い感謝と今後の活躍とご健康を心からお祈り申し上げます。本当にお世話になりました。

松山洋子様

寒中お見舞い申し上げます。

昨年私の右膝の手術に対しまして大変御世話になりました。これまで一歩足をふみ込む事が出来なくて先生の一言で決断しました。まだまだ歩くのに少々痛みはありますが手術して良かったと思います。又入院中主人が病で倒れ先生始め皆様の手厚い看護の元、命をとりとめる事が出来ました。現在上町病院で治療しています。本当に有難うございました。

岩倉久子様

股関節の手術をして

股関節が痛み出したのは50才の頃からでした。近くの病院で湿布をもらい電気治療などをしてきました。ところが痛みは増すばかりで歩くのも辛く長年の治療に疑問を持っていました。その頃、知人から橘病院の評判を聞き、私も診察を受けてみようと思いました。診察の結果、先生も驚かれて、すぐに手術した方が良いとのことでした。やっぱり、そんなに悪かったのかと思い、不安でしたが、手術を決心しました。56才の時に右股関節、それから3年後に左股関節を手術しました。入院では、リハビリが大変でしたが、先生や理学療法士の方や病院のスタッフの方に励まされ、乗り越える事が出来ました。今では、辛かった痛みは嘘のように消え、毎日の家事や畑仕事、趣味のガーデニングに精を出しています。手術をして、本当に良かったと思っています。柏木先生、病院のスタッフの方々には感謝しています。

島崎佐喜子様

～緻密な温かいリハビリ～

友人夫婦が突然訪問。明日都城橘病院へ1年後の診察に行くから、君の奥さんも一緒に行こうと熱心に誘うので行くことにした。

その日が、平成30年5月31日。初診のレントゲンを根拠に左股関節の手術の必要を理解しやすく柏木先生が説明なされた。即座に入院、手術、リハビリ、退院への一連の計画表を提示してもらった。今までの多くの方々を診察治療された経験に基づいた緻密な治療計画一覧表だった。手術後の経過説明、翌日からの理学療法士の午前午後のリハビリ室での治療、三食の給食などの面でも患者の立場に立って接して下さる職員の方々に勇気づけられました。今では妻も左股関節の調子よく回復し半年の診察を受けられるようになりました。柏木先生やスタッフの皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。



森 高 様

退院して、3年目になろうかとしています。歩けない程痛かった頃を思い出すと、ぞっとしますが、幸い桑原記念病院から橘病院を紹介頂きました。柏木先生に診てもらい、手術するか、痛み止めにするかと言われて夫が手術を勧めてくれて手術する事ができました。説明を聞いて不安でしたが、手術当日は覚悟して何とか頑張れました。今では、またミニバレーを始めました。週2回で休憩を入れたりし、合間には体育館の階段を上り下りして楽しんでいます。また4月には、検診です。宜しくお願い致します。

T・N 様

～膝人工骨手術をして～

右膝が痛くなり3年間近く整形外科のリハビリ・整骨院での治療・プールでの歩行に励んだが痛みは続いた。手術するのにすごく悩んだが今後勤務にも支障があるかもと思いついに決めた。40日間の入院生活を経て自宅で1週間静養して職場に復帰した。退院後1ヶ月間は温泉で足をもみほぐしたり打たせ湯で足を刺激した。2ヶ月目からは運動場のトラックの土の上を2キロ位毎日歩いた。6ヶ月目からは道路を毎朝4キロを1時間弱で大股、早歩きをしている。胸を張って手を前後に大きく振りながら歩き続けている。寝る時、床についてすぐあお向けで5分位両腕を曲げ肘を下に力いっぱいつけ胸を張り足を真っすぐ伸ばすようにしている。気持ちよくぐっすり休める。暖かくなったらまたプールに通い歩行運動をしようかなと考えている。今後反対足が悪くならないように未然防止に努めたい。

匿名様

昨年八月に急に左股関節が痛くなり娘と橘病院へ行きました。柏木先生にお世話に成りますと云って診察し事情をお話する。レントゲンを撮りましょうと云われ結果を見せて頂くとすごく悪かった。リハビリを十ヶ月ぐらい、薬も頂いたが今年の五月頃痛みが強くなったので手術をして下さいとお願いした。頑張りますと云って今年の七月の末に手術をして頂き、結果がよく痛みもなくなり、入院中も回診に来て頂き、食事もおいしく頂き、又柏木先生始め看護師さんリハビリの先生方、スタッフの方に親切丁寧にして頂き、一日一日と元気に成って一人で歩けるように成りました。ほんとうになんとお礼を申し上げていいのか感謝の気持ちで一杯です。ほんとうに有難う御座居ました。九月五日に退院しました。

池山 義光 様

～両股関節手術を終えて～

平成27年頃より痛みが強くなり他院で水抜きして注射しましたが、痛みの和らぐ事はなく、叔母の紹介で柏木先生にお願いに参りました。先生が診察されて、骨が腐れているので水抜きはせず注射とリハビリだけでやろうといわれました。注射、リハビリ共手術前7月5日頃までして頂きました。7月12日に左股関節の手術が終わって3日目には痛みが和らいで歩けるようになり、後はリハビリで日々痛みがなくなりました。8月25日右股関節の手術については若い頃、昭和57年鹿児島大学で関節の手術をして1年入院して居ましたので手術は大変だったと思います。右股関節手術後7日ぐらいであの痛みはなくなり、その後歩けるようになり、リハビリにて一日一日痛みが消え退院後は痛みがあったような足ではありません。若い頃から一生痛みが続く思っていましたが一生涯の痛みがなくなり先生本当にありがとうございました。

K・C 様

私は15～16年前から徐々に身体の関節に不調が現れ、その都度柏木先生の的確な診断のおかげでリハビリ室での治療等で改善しました。運動も必要な事から、ウォーキングを開始し数年続けているなか、年齢的に夫の入院や自分の体調の変化、夫の通院の付添、再度の入院で運動も減り、その後、坂道で転倒して怪我をしたりで筋力も低下し、更に腰痛も続き、検査を受けた処、股関節の軟骨が左右共、僅かしか残存せず、手術の先延ばしは難しい見解でした。家族に相談し平成29年7月に右、10月に左を柏木先生に手術して頂きました。外来から入院中も病院のスタッフの皆様には親身になって頂きました。感謝の一言です。おかげ様で今後も前向きに考え、生き甲斐の趣味も続けていけたらと。同年に手術で歩行等のバランスがとれる。リハビリで正座を取り入れて頂いた事。本当に有難うございました。

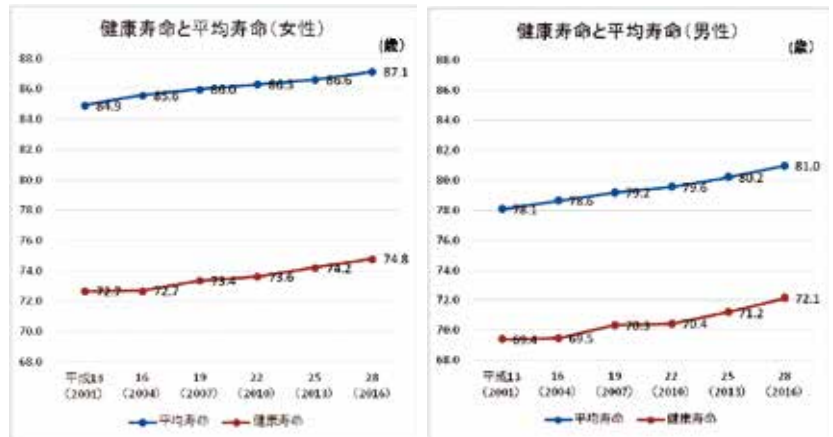


栄養科だより

健康寿命についてご存知でしょうか。

健康寿命とは、寝たきりにならずに自立した生活を送れる期間のことをいいます。

右記のグラフは、平均寿命と健康寿命の推移を表しています。グラフを見ると、女性で約12年、男性で約9年は日常生活に制限のある期間がある、といえます。その中で近年、加齢とともに下肢の筋肉量が減少し、要介護状態の原因となるサルコペニアが注目されており、その対策が健康寿命を延ばすためのカギの一つになると考えられています。



(参考:厚生労働省HPより)

☆サルコペニア対策のための栄養改善の取り組み方☆

・サルコペニアとは、ギリシア語で“筋肉”を表す「サルコ」と“減少”を表す「ペニア」を組み合わせた言葉で、「加齢に伴い筋肉量が減少し、筋力や身体機能が低下している状態」をいいます。

要介護状態や寝たきり状態の原因ともなりうるため、サルコペニア対策が介護予防のために重要とされています。

70歳以上では男女ともに、エネルギー・たんぱく質・脂質などの栄養摂取量の減少が調査により明らかになっています。栄養がとれていないことは、筋肉量・筋力の低下につながるため、十分な注意が必要です。

POINT1☆

食事は主食・主菜・副菜をそろえて、バランス良く

主食

ご飯・パン・麺など炭水化物を多く含み、からだのエネルギー源になる。

毎食どれかひとつ

主菜

肉・魚・卵・大豆製品などたんぱく質を多く含み、筋肉や体をつくる材料になる。

毎食どれか一皿

副菜

野菜・きのこ類・海藻類などビタミン・ミネラル・食物繊維を多く含み、身体の調子を整える。

1日に5皿

良質なたんぱく質の摂取を欠かさずに!

1食当たりの目安量

(どれか1つは毎食取り入れましょう)

薄切り肉 3枚/約60-70g
魚の切り身 1切/60-70g
卵 1個
豆腐 大きいパック 1/3丁

POINT2☆

カルシウム・ビタミンDを補給し骨を丈夫に!

牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品や豆腐・桜エビなどのカルシウム豊富な食材と、鮭・さんま・きのこ類などのビタミンDの多い食材の摂取を意識すると良いです。

ビタミンDは、最近では筋肉を強くする役割があることも明らかになっています。

POINT3☆

筋肉の材料になるBCAAを意識してみましょう

体内でつくることができない9つの必須アミノ酸のうち、バリン・ロイシン・イソロイシンの3つを「BCAA」と呼びます。

BCAAは、たんぱく質を作り出しやすく、壊れにくくする働きがあることが知られています。鶏卵・まぐろの赤身・大豆類・牛乳 などに多く含まれます。

持病があり、食事療法の必要がある方は、かかりつけの医師に相談したうえで実践してみてください。サルコペニア対策は、食事改善とともに、運動との両立が大切です。座っている時間を減らす、階段を利用するなど、毎日の生活を活動的にすることから、無理なく始めてみましょう。

骨粗鬆症外来

骨粗鬆症についての相談・治療を開始致します。

現在、治療されている方、検査を希望されている方、骨粗鬆症について何でも相談・検査ができます。

現在、治療に携わっている主治医にも気兼ねなくご相談ください。

骨粗鬆症についての最新情報と治療を提供できるように、特殊外来として開始したいと思います。

毎週木曜 午前中

骨粗鬆症について気になる方、又そのご家族の方はお気軽にご相談ください。

予約も可能です。受付までお知らせ下さい。

担当医は**吉田尚紀** 医師です。TEL:0986-23-7236

外来診療予定表

	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜	土 曜
午前診療	柏木 Dr	柏木 Dr	花堂 Dr	柏木 Dr	花堂 Dr	柏木 Dr
	吉田 Dr	矢野 Dr	吉田 Dr	花堂 Dr	吉田 Dr	花堂 Dr
	川越 Dr	吉田 Dr	川越 Dr	川越 Dr	川越 Dr	吉田 Dr
				骨粗鬆症外来		川越 Dr
	外来手術・手術	手術	手術		手術	宮医大Dr
午後診療	花堂 Dr	花堂 Dr	花堂 Dr	/	花堂 Dr	宮医大Dr
	川越 Dr	宮医大Dr	吉田 Dr		吉田 Dr	/
	吉田 Dr		川越 Dr		川越 Dr	
	外来手術・手術	手術	手術		手術	

※なお、Drの都合により急遽、予定変更になる場合もありますのでご了承ください。

※緊急で手術が入る場合は、診療時間が変更になりますのでご了承ください。

土曜日 外来担当医	柏木 Dr	第2・第4土曜日（第1・第3・第5土曜日は、病棟診療）
	花堂 Dr	第1・第3土曜日（第2・第4・第5土曜日は、病棟診療）
	吉田 Dr	第3・第5土曜日（第1・第2・第4土曜日は、病棟診療）
	川越 Dr	第1・第2・第4・第5土曜日（第3土曜日は、病棟診療）

●皆さんから何か疑問に思われることやご質問があれば、当院の医師、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師、放射線技師、事務員がお答えいたしますので文書や口頭、メールでかまいません。お寄せください。

（メールアドレス info@tachibana-hospital.jp）